

可児市議会地域課題懇談会出前講座 I N可児高校実施報告書

みだしのことについて、下記のとおり実施しましたので報告します

日 時 平成 27 年 12 月 10 日（木）午後 3 時 50 分から午後 5 時 45 分

会 場 可児高等学校南校舎 1 階会議室

内 容 講演(前半) 演題「政治と選挙にどう向き合うか？」

・可児市長 富田 成輝

講演(後半) 演題「地方議会から見た政治の役割」

・議会改革特別委員会委員長 川上 文浩

意見交換 課題「どうしたら選挙に行くのか？」

・参加者を 9 グループに分けて課題について意見交換

結果発表 各グループの高校生による意見交換の結果発表

※結果報告の概要は別紙

参加者	可児高等学校生徒	36 人（2 年生 32 人・1 年生 4 人）
	可児市議会議員	17 人
	可児市長	1 人
	可児市職員（選挙管理委員会）	4 人
	NPO 縁塾	5 人
	合計	63 人

地域課題懇談会出前講座 IN 可児高校意見交換結果の発表概要

行かない理由

行かない理由に対する解決方法など

× マニフェストが分かりにくい。	⇒	・ わかりやすいマニフェストの作成をしてもらう。
× 政治の知識が不十分であったり、投票のシステムがよくわからない。	⇒	・ 模擬投票やこのようなセミナーをほかの場所でどんどんやっていく。
× 自分の意見が反映されない、自分一人がいなくても大丈夫だという感じである。 × 政治って何なのか、政治がわからない、興味がない。	⇒	・ 投票に対する意思を変えとか、白紙でもいいから投票する。 ・ 誰に投票していいかわからないというときは白票という手段がある。
× 誰を選んでも同じとか、立候補の違いがわからない。どの政党が何をしているのかかわからない。	⇒	・ インターネットや新聞で見て自主的に確認をとる。
× 状況がわからない。	⇒	・ 学校の授業で立候補者の方をお招きして演説を行ってもらう。 ・ 日常生活の家庭の場で話し合う。
× 情報がない。	⇒	・ ツイッターとかLINEとかそういうSNSの場で、そういう選挙をしますよという告知をしていることがわかった。
× やっぱり興味をみんな全然持っていない。	⇒	・ インパクトのある政策を打つ。若い世代の立候補。
× 選挙に対して興味・関心が薄い。なぜなら現社の授業や家庭内において興味・関心が十分に湧かなかった。 × 親も行っていないから自分も行かなくてもいい。	⇒	・ 家庭で政治について話し合う。ニュースなどで見て思ったことを家族で話す。
× 投票に対して実益を感じられない。	⇒	・ 投票に行った方には、賞品・特典を与える。
× 投票に行く時間がない。 × 投票所まで距離が遠い。 × 行くのが面倒である。 × 若い人は仕事をしているため本当に時間がない。 × 政治のことより他にやるべきことがある。	⇒	・ コンビニなどどこかで手軽に選挙ができるようにする。 ・ インターネットを活用した投票ができるようにする。 ・ 投票に行かないと罰金を科す。 ・ 企業で選挙の日という休みをつくって義務化する。
× 休みの日にわざわざ行く必要はない。	⇒	・ 期日前投票を行っている
× 若い人たちはお年寄りとかに任せて選挙に行かない。	⇒	・ 一票の格差をつけて、お年寄りのほうが多いので、若者の1票はそのままの価値にして、お年寄りの1票の価値を下げる。
× 地域の政策とかがよくわからないということが出たから正しく選挙が行えないんじゃないか。	⇒	・ 意外と身近にいろいろな政策があって、例えば自分たちは15歳までは医療費が可児市では無料だったというのは、自分は当たり前のように感じていたんですけど、実はそれが可児市のしっかりとした政策だった。

行く理由

- 自分の意見を反映してもらうための選挙が行われる。自分たちだけでなく、ほかの世代にかかわる大きな選択をする場が選挙である。
- 自分の意見が反映されることでうれしい、次も行こうとすることができる。
- 高齢者の方は若い人より時間がある。
- 周りの人が行くから行く。
- 政治のことについて真剣に考えているから行く。
- 政治に興味がある、もっと政治に詳しくなりたい、投票をしてみたい、自分の意見を反映させたい。
- 18歳への選挙権の引き下げは若者による政治参加であるため。
- 議員に若者中心の公約を出して欲しい。
- インターネットなど自分たちの身近なところで公約などを紹介して欲しい。

解決方法のみの提案

- ☆学校で投票できるようにする。
- ☆学校で選挙を強制的にやらせることで、習慣として身につければ20歳になっても、その先も選挙に行く。
- ☆学校などで政治に関する講義などを行ったり、興味を持たせるような環境づくりを求めている。
- ☆選挙パスポートを導入する。
- ☆自分の1票が大切だという事例を挙げる。
- ☆生徒側が政治に関する情報発信をする。
- ☆接した議員さんに自分たちの意見を反映してもらって、その自分の意見を反映してもらう。
- ☆各世代ごとに政策をつくってもらうことで、それぞれの世代ごとに大きくわかりやすいマニフェストをつくってもらう。
- ☆魅力のある政策を提示してもらう。
- ☆ニュースなどで、政治のことについてよく関係のない不適切な言葉でやっているが、それ以前にもっと国のため、国民のためになることを放送して興味を持ってもらうことが大切だと思う。
- ☆国の選挙と地方の選挙が同時にあった選挙というのは投票率が高かったみたいなので、同時にやることで経費も削減できる。



高校生との企画会議①（11月13日）



高校生との企画会議②（12月6日）



議長あいさつ



市長による基調講演



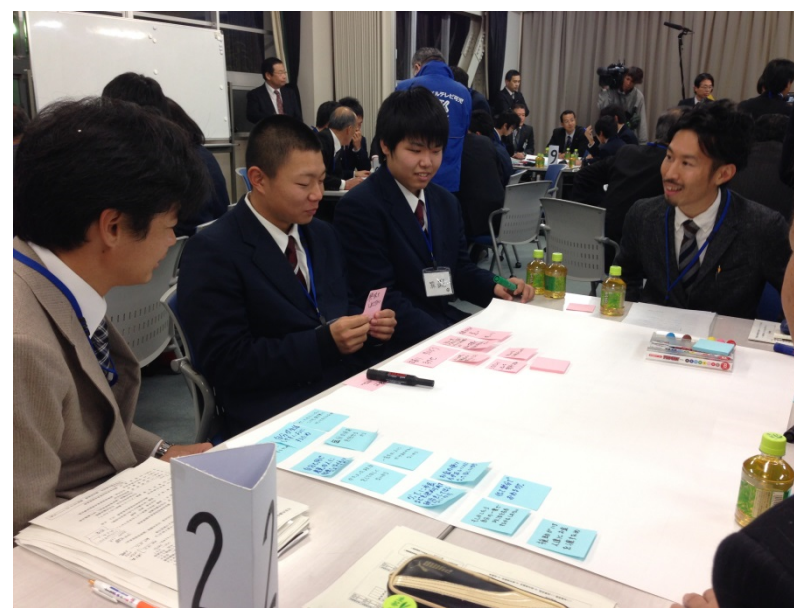
議会改革特別委員長による基調講演



意見交換の様子①（市長）



意見交換の様子②（選挙管理委員会事務局）



意見交換の様子（NPO縁塾）



高校生による意見交換発表



講評（市長）



講評（選挙管理委員会書記長）



講評（可児高等学校長）

可児市議会参加者からの出前講座に対する意見等

- ・参加議員を全議員対象とすべきではないか。
- ・今回は可児高等学校のみであったが他の高等学校にも拡大すべきである。
- ・政党マトリクスの仕様は適切ではなかったと思う。
- ・発表に充てる時間が短かった。
- ・限られた時間であるため、予め模造紙のまとめ方（分類・記載方法）を決めておき、高校生にアドバイスできるようにしたほうが良かった。
- ・意見交換の発表が終了した後に、各グループ内で振り返りをする時間があるとよかった。

可児市選挙管理委員会事務局参加者からの出前講座に対する意見等

- ・生徒が事前に配布した池上彰さんの資料等を読み込んでいたようで、市長や川上議員の講話をとて理解した上でワークショップに臨んでいた。
- ・選管職員が多くの子供を相手に選挙制度の説明をするのに比べると、少人数にはなるが、個々の生徒が選挙や政治について深く考えることができたと思う。そして、参加した生徒が各教室で説明することで、効果が広まることを期待する。
- ・ネット投票、コンビニ投票、高校での投票等、投票環境の整備を求める率直な意見があった。ネット投票は個人認証の確保、オンライン配置等、まだまだハードルが高く、総務省でも現在は論点整理の段階だが、将来的な方向性として見据えていきたい。コンビニや高校での投票については、総務省も居住市区町村内の投票所ならどこでも投票できるようにする方向で検討を始めており、公選法の改正やオンラインの確保がされれば、当日投票所又は期日前投票所の拡充先として考慮の対象になり得る（高校生の有権者は3年生の一部だが）。
- ・企業が投票日を休みにすればという意見もあった。仕事等で投票日に投票に行けない人のために期日前投票があるので、選挙制度としては対応済みだが、各企業が自主的に主権者教育の一環として取り組んでいただければ、社会人の政治参加意識向上のきっかけとして、有意義なものになるかも知れない。
- ・今回の出前講座に参加してくれた生徒は、全校生徒からするとまだまだ一部であり、全員にこうした経験をしてもらうためには、選管としても教育委員会や学校と連携した出前授業、模擬投票等、継続的な取り組みが必要であると感じた。
- ・彼らは、家族とも選挙の話などしたことないし、選挙そのものをよく知らない、とのことだったが、やはりこれまでの教育方法（親の世代も含めて）や、国や県、市（選管）の周知方法にも問題があったと思われる。

地域課題懇談会出前講座 IN 可児高校考察

平成 27 年 12 月 10 日に可児市議会地域課題懇談会出前講座 IN 可児高校「18 歳選挙権をきっかけに政治と選挙を考える」と題した出前講座を行いました。主催は可児市議会議会改革特別委員会で場所は可児高校会議室、参加者は生徒 36 人、市長はじめ選挙管理委員会職員が 5 名、NPO 縁塾会員 5 名、可児市議会議員 17 名です。可児市長が「政治と選挙にどう向き合うか？」と題して講演され、議会改革特別委員長が「地方議会からみた政治の役割」と題し、国と地方の仕組みの違い、年代別投票率や選挙へ行くことの意義などについて話をしました。その後 9 班にわかれ「どうしたら選挙に行くのか？」をテーマにグループディスカッションを行い、意思と関係なく生徒を「行く派」「行かない派」に分け、それぞれの立場から意見を出し合い、選挙へ行くようにするにはどうしたらいいかを結論付けし、各班の高校生が発表し、問題を共有しました。生徒からは「学校でも投票できるようにする」「国や地方の選挙の投票日を同じ日にすれば、投票率が上がり、経費も削減できる」といった意見が発表されました。なかには「若者の考えを反映させるため、年代別の人口に応じて一票に格差をつける」との提案もありました。

参加した生徒のアンケートにおいて、『Q1. 視野が広がり、理解が深まり、参加してよかった』では、とてもあてはまる 21、あてはまる 11、どちらかというにあてはまる 4 となり、まったくあてはまらない、あてはまらない、どちらかというにあてはまらないはゼロとなりました。『Q2. 社会・政治・選挙が、より身近に感じられるようになった』では、とてもあてはまる 11、あてはまる 19、どちらかというにあてはまる 6 となり、まったくあてはまらない、あてはまらない、どちらかというにあてはまらないはゼロとなりました。『Q3. 自分の将来や日頃の生活について、より深く考えるヒントになった』では、とてもあてはまる 17、あてはまる 12、どちらかというにあてはまる 7 となり、まったくあてはまらない、あてはまらない、どちらかというにあてはまらないはゼロとなりました。

ここで参加した生徒の感想文を紹介します。「今まで選挙なんてまだ先の話だからと考えようとしませんでした。講座に参加してみて、市長さんや可児の議員さんたちと話し、どうしたら選挙に行くのか考えました。いろいろな案が出て話し合いも深まりました。しかし、出た案が実行に移るのは、まだまだ先だと思います。これを機会に選挙について、これからの未来について考え直したいと思います」。

初めての地域課題懇談会出前講座であり心配はありましたが、学校内で実施することで、生徒がリラックスして臨めたのではないかと思います。初めての生徒も早い段階から打ち解けて活発な意見交換をすることが出来ました。また、開催前にグループ内で自己紹介などを行ったことでその効果が増幅されたと思います。

今後はこのような出前講座を各高校で開催することを視野に入れて活動します。また、平成 28 年 2 月 10 日開催の高校生議会、高校生が考え、提案する条例づくりを進めていきたいと考えています。

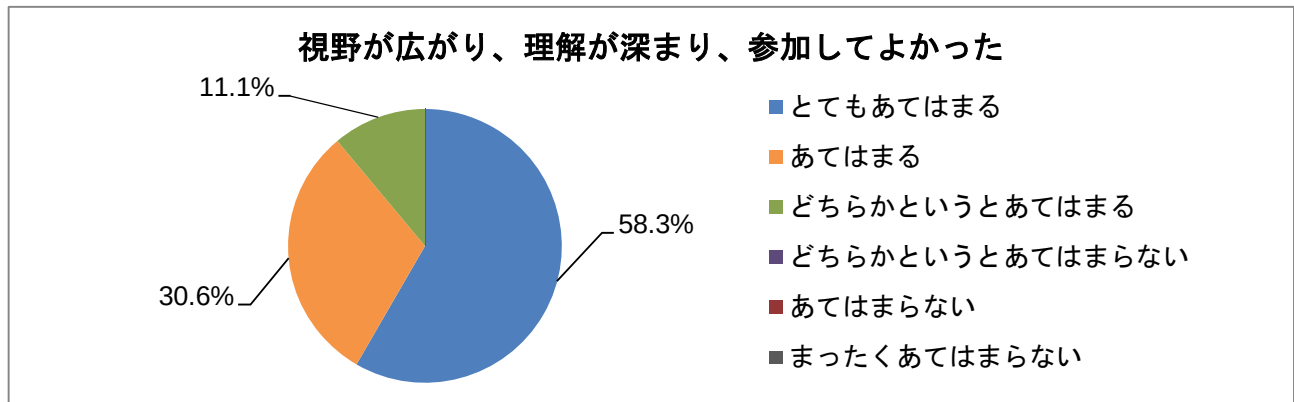
日本創成会議は、人口減少問題検討分科会の推計による 896 の自治体が消滅可能性都市であると公表しました。このことは自治体に大きな衝撃を与えることとなりましたが、処方箋もなく突然発表された自治体では未だにその影響から脱出できない状況です。日本版 C C R C 構想などにみられるように、地方と首都圏や大都市における関係の改善は非常に難しい状況にあります。国は平成 26 年 12 月に「ひと・まち・しごと創生総合戦略」を作成しました。それに基づき、各市町村で総合戦略が作成されました。その内容は地方経済の安定、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育て、若い人が住みたいと感じるまちなど、残念なことに金太郎あめのごとくであり、その政策・施策は似たものとなってしまい戦略といえるものとはなっていません。地方を変えるためには、多様な市民の意見を集約し、議論を重ねることが出来る地方議会こそが最も相応しい組織であり、議会報告会、意見交換会、各種懇談会などを通して得た市民の意見や要望を、議会が持つ PDCA サイクルの中で反映させ、市長を中心とする執行機関に対し、議会が決定した意思を伝えることにより、よりよい施策となるよう徹底した議論をすることが必要です。また、地域への愛着や当事者意識の醸成、広い視野や新しい経験の獲得など、地域の魅力を知る場を作ることとも議会の大きな使命のひとつです。このような取り組みを通して、ふるさと発展に寄与する人材の育成こそが、地方創生への大きな一歩となると確信しています。

可児市議会地域課題懇談会出前講座 I N可児高校アンケート結果

次のQ 1～Q 3について、今回の講座に参加した直後の自分に最もよくあてはまるものの番号を、各のマーク欄にマークしてください。また、その下に感想を書いて下さい。

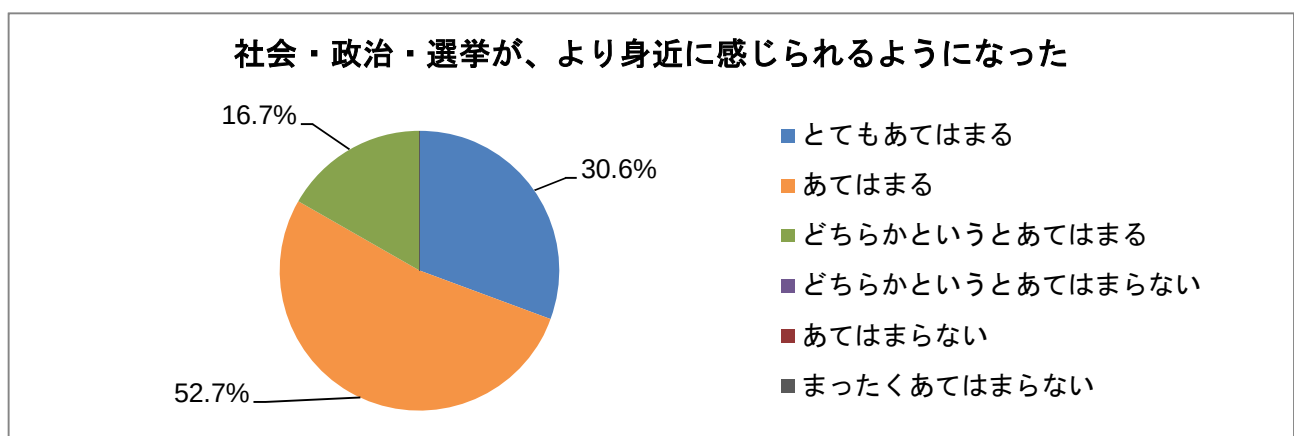
Q 1. 視野が広がり、理解が深まり、参加してよかった

とてもあてはまる 21 名 あてはまる 11 名 どちらかというにあてはまる 4 名
どちらかというにあてはまらない 0 名 あてはまらない 0 名 まったくあてはまらない 0 名



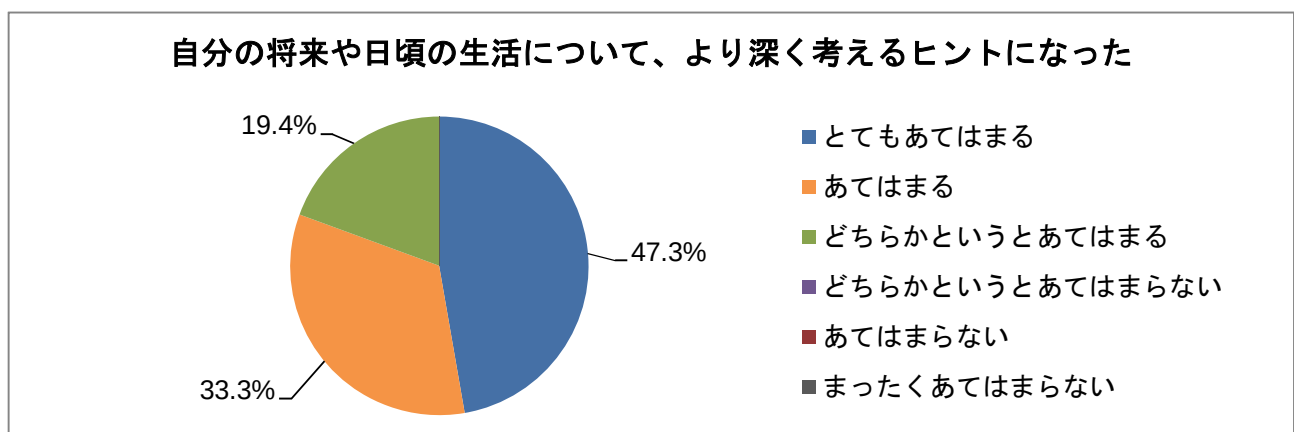
Q 2. 社会・政治・選挙が、より身近に感じられるようになった

とてもあてはまる 11 名 あてはまる 19 名 どちらかというにあてはまる 6 名
どちらかというにあてはまらない 0 名 あてはまらない 0 名 まったくあてはまらない 0 名



Q 3. 自分の将来や日頃の生活について、より深く考えるヒントになった

とてもあてはまる 17 名 あてはまる 12 名 どちらかというにあてはまる 7 名
どちらかというにあてはまらない 0 名 あてはまらない 0 名 まったくあてはまらない 0 名



可児市議会地域課題懇談会出前講座 I N 可児高校生徒感想

- ・僕は今まであまり 18 歳で選挙をもらってもあまり行く意味を感じられていなかったけれど、いろんな話を聞いて選挙へ行って投票をすること自体に意味があるということが分かった。また、参加していた人たちは選挙へ行くための解決策を柔軟にたくさん出していてすごいと思いました。
- ・楽しいグループワークになりました。自分が知らないことがたくさん知れて、もっと選挙に対して積極的になることが大切だなと思いました。この会をきっかけに、選挙について関心がふえればよいなと思います。1 月 2 月とまだまだやれることはたくさんあると思うので頑張っていきたいです。
- ・僕は「18 歳選挙権」に賛成派だが、今回の話し合いでは反対派をして意見を考えた。このことで「18 歳選挙権」のどこがいけないのか、また現政治体制や選挙制度のどこがいけないのかをよく考えることができ、またそれに対する改善案も考えることができた。この機会に知識や関心を与えて貰ったので、これからの動向に注意していきたい。また来年 7 月の参議院選挙では僕はもう 18 歳になっているので各政党の方針や過去の実績などを確認しておきたい
- ・今回の出前講座に参加することで、これまで選挙について詳しく知ることもなく、あまり考えることがなかったけれど、選挙を身近に感じることができ、また、選挙についてもっと深く考えるべきだと思いました。18 歳、19 歳に選挙権が引き下げられ来年にも選挙権を持つ人が出てくる中で、今回のような講座で話し合うことで、選挙に対する興味や意欲が湧きました。また市議会の方々に自分の意見を伝えるというのも、非常に貴重な経験になりました。
- ・選挙にはまだまだ自分とは関係のないものだと考えていましたが、この講座を通して、自分のこれからの生活で欠かせない重要なものだと認識しました。また、ただ選挙に行くだけではなく投票率を上げるために、この社会と深く関わっていきたいです。
- ・市議会議員の方と話していっしょに 18 歳選挙権について考えてみてもうすぐに自分たちの身近に選挙がせまってくることを感じた。また、楽しみながらアイデアを出したのでとても楽しかったし、おもしろかったです。
- ・高校 4 人 大人 3 人の混合のグループで選挙の投票についてのディベートをしました。選挙にいく人、いかない人の理由を考えて行く人はもっと行くようになる理由、行かない人に対しては行くようになる理由を考えました。18 歳選挙が始まるということで本当に興味をひかれるディベートだったので良かったです。
- ・日本は、他の国より選挙の回数が多いということを知りおどろきました。生涯で通したら 100 回もあるのはおどろきです。
市民の講話ででてきた、選挙に行かない人には、罰金というのはとても効果がでると思います。20 代の選挙の投票率をのばせたらいいなと思いました。

- ・今回の講座では可児市議会の人や縁塾の人との政治や選挙、18歳選挙権についての意見交流を行うことができ、これまで自分が考えていたことを直接現職の議員の人に聞いてもらったり、今の日本の選挙の問題的について語り合うことができた。話し合いの中で自分なりの現状の人々の意識を変えるための方法や理想的な選挙像を持つことができた。
- ・今回は市長の話や選挙に詳しい人の話をきいて、今の日本の社会のことが良く分かりました。話し合いに参加することで社会とか政治がより身近に感じられるようになりました。またやりたいです。
- ・講座に参加して、選挙について全然わからなかったけど選挙に行く人と行かない人の意見をまとめてどうすれば行かないという人が行くようになるか、興味をもつかを考えるのがとてもためになりました。18歳になっても行かないなと思っている人が多いと思うのでここで学んだことを教えたいと思いました。
- ・今まであまり政治に対して興味がなかったけど、来年には18歳になり、人ごとではないなと思い参加しました。いつも何気なく当選結果や投票率を見たり聞いたりしているけど、今日実際のデータなどを見て、ちゃんと投票に行っている人たちの少なさに驚き、少しがっかりしました。私たちが「こんな日本になってほしい」と思う思いを代表して議員の方たちにたくしているのだから、やっぱり選挙に行くのは義務だと思います。
- ・今回の講座を通して、もっと若い世代の人が政治に関心をもつべきだと思ったし、いい経験になった。
- ・普段大人の人と話す機会は少なくて話してみると僕たちとは違った視点から物事について教えてくださり、とてもいい経験になりました。選挙権が18歳になるのはメリットもデメリットもあり、難しい話だなと思いました。
- ・18歳で選挙権をもつことのメリット・デメリットを考え、いかにデメリットをメリットに変えられるか、どのようにしたら変えられるかを色々な視点から考えることができたし、皆の意見を聞いて色々な話が聞けてとてもおもしろかったです。選挙の事について身近に感じられたので、このような講座をたくさんやるともっと皆が興味がわくと思うし18歳で選挙権をもつ事について考えるようになると思うのでぜひやっていった方がよいと思う。
- ・この出前講座に参加することが決まって、選挙について調べたら、とても興味がでました。また、7人で話し合っていたら、大人の方々が本当に真剣に聞いてくださって、すごくうれしかったし、楽しかったです。また、私一人では気付かない意見がたくさんでて、とてもおもしろかったです。こういう機会は政治に興味を持つきっかけになると思うので、どんどん参加していきたいと思いました。

- ・今まで選挙なんてまだ先の話だからと考えようともしてませんでした。講座に参加してみて、市長さんや可児の議員さんたちと話し、どうしたら、選挙に行くのか、考えました。色々な案が出て、話し合いも深まりました。しかし、出た案が実行に移るのはまだまだ先だと思います。これを機会に選挙について、これからの未来について、考え直したいと思います。
- ・来年から自分も投票する立場であるので、このような場に参加できてよかった。白紙投票など知らなかったこともしれてよかった。とにかく意思表示をしていくことが投票率を上げることにつながり、政治をたすけることになると分かった。えらぶ人がいなくても白紙でだしていきたい。
- ・来年からは18歳が有権者になることは知っていましたが深く考えたことはあまりありませんでした。しかし、今回の取り組みを通して選挙のことについて向き合ってみると若者に対して大人達が求める政治の理想を考えることができました。とても貴重な時間をいただけて良かったです。
- ・今回の講座に出席して、普段話すことがない大人と「選挙」や「政治」について話し合うことで自分の知見を広げることができた。これらは難しい課題だが、わからないからといって、何も行動しなければ何も変わらないと思う。このような機会がさらに増えていけばいいと思う。今回はとてもよい経験となった。
- ・投票率が下がっている今、一票の重さがかなり重くなっていると思いました。なので、自分が投票をするときになったら日本の未来のことまで考えてするようにしたいと思います。
- ・今回の出前講座でも、色々な方々と意見を交流して、視野が広がった実感があります。市は頑張っても市民がついていかないと中身のある、意味のある、良い政策はできないから、僕らがすべき事というのは選挙に参加し、意思表示をすることかなと自分なりに納得しました。
- ・自分はよくニュースなど見るけど最近の安保法案についてとても興味をもっていて、今、反対してる人々はとても多くいるけどその人たちは投票に行ったのかまたしっかりと考えて投票したのか、とても疑問に思っています。今回のこの講座で投票の大切さを再認識できました。一人一人の投票が未来を決めるということを強く思いました。
可児市の市議の人や選挙に関係のある人と話すことができてとても有意義な時間でした。
- ・講座をうけた後と、前とでは気持ちガラッとかわりました。選挙なんていいと思っていましたが市長さんの話とかを聞いて、若者の力は必要だということがわかりました。

- ・今回は18歳選挙権について真剣に取り組むことができよい機会となったと思います。また自分の意見をしっかりとつことができ、今の自分になにができるのか考えるきっかけにもなりました。例えば僕の意見としては、18歳から選挙権ではなく、もう高校生になったら選挙権を得て、学校側で選挙に行くことにすればあたりまえのように行くようになると思います。最後に経済について一人一人が興味を持つことがまず一番大切だと思う。
- ・今回の「18歳選挙権」出前講座に参加してみて、より選挙というものが身近に感じられるようになりました。また「どうしたら投票に行く人が増えるだろう」というテーマで出た、みんなの意見はとても「ああ、なるほど!」と思えるような意見だったので楽しく話し合いをすることができました。
- ・普段、政治のことについて考えることはなかったけど今回の講座でいろいろなことを考えるようになった。学校では大人の人たちと政治の話をするような機会がなくて、このような貴重な体験ができてよかった。このような講座があったらまた積極的に参加していきたいと思った。
- ・今回の話し合いによって、選挙についてのイメージ、今まで持っていた政治の考え方が大きく変わりました。議員の皆さんとも親切に教えていただきました。投票率など、具体的な数値を示してもらったおかげで話し合いの時などに用いることができました。
- ・私は選挙に行ったり、積極的に関わらなければいけないと思いながらもあまり知らなかったもので、この機会を通して、選挙権についてたくさんことを知ることができたので良かったです。私は18歳に選挙が引き下げられても、そこまで投票率は変わらないと思うけど、よりよい国・社会にしていくために政治と積極的に関わっていこうと考える若い人が増えればいいと思いました。
- ・選挙権についてあまり考えたことがありませんでした。議員の方とお話をさせてもらって、私たち高校生から発信していかなければならないことが分かりました。若者の投票率が低いのは事実であるので、少しでも政治に興味を持てるように手を打っていただければいいなと思いました。
- ・来年の7月選挙では私も選挙権が有ると言う事で参加させて頂きましたが、遠い未来の話ではなく、今の身近な政治にも興味が湧きました。自分は割りと政治に興味がある方だと思っていたのですが、他のグループから出た知識や意見、打開案は自分が考えても見なかった斬新な物や考えたその先の事まで思考された物が沢山ありとても面白かったです。またこの様な機会があれば参加してみたいです。
- ・もともと選挙には参加するつもりでしたが、今回の出前講座で理由付きで参加してみようと思いました。特に、1回の選挙用の建物の準備だけで25万円くらいかかるときいてびっくりしました。そのお金をむだにしない自分の意見を反映させるためにはまず投票しなければなりません。2つの事を通す為に絶対、選挙に参加していきたいと思いました。

- ・ 今回の講座に参加して、他の人の意見や選挙について分からなかった部分を詳しく知ることができ選挙を身近に感じられるようになった。選挙に「行く」「行かない」でわかれて意見を出し合ったときも、自分の考えていなかったものが出たりして、このような考え方もあるのかと視野を広げることもできた。このような講座があればまた参加したい。
- ・ 今回の出前講座に参加して、18歳の選挙権までまだ2年間あるけど、多くの市議会議員さんと話すことで、大人が政治関係者からの18歳選挙権についての考えを聞くことができ、話し合えて楽しかった。もし今後このような機会があったら参加していきたい。また、他の高校生や中学生などと意見交流をしてもっと深めていきたい。
- ・ 貴重な体験をさせてもらいました。18歳に選挙権を引き下げることで、どんな影響と対策が必要なのか、実際に運営する人との話や実際の経験談は自分の地方自治の見方が広がったし変わりました。身近に感じられるとことを意識するようになっています。また、大勢のおえらいさんの前で、自分の意見を堂々と言うという、めったにできない大人で必要な世界を高1で体験できたのも自分にとって良い経験でした。